

第2章 環境交通

環境保全や公共交通の利用を促進し、環境への負荷が少ない資源循環型社会の構築を進めます。また、犯罪や事故のない安全なまちづくりを進めます。

6. ごみ対策

7. 環境対策

8. 公共交通

9. 防犯・交通安全

基本施策6 ごみ対策

◆目指す姿

3R(リデュース・リユース・リサイクル)の取組みを市民や事業者、行政が、それぞれの役割を分担し協働して推進していくことによって、ごみの発生・排出が抑制され、排出されたごみを資源として利用する資源循環型社会が構築されています。また、ごみのポイ捨てもなくなり、快適で清潔な生活環境が確保されています。

◆目標値

指 標	現 状 値	目 標 値	
		平成 25 年	平成 30 年
家庭系ごみの一人1日あたりの排出量(資源を除く)	477g	470g	460g
ごみの総排出量に対する資源化量の割合(再資源化率)	28%	29%	31%
事業系ごみの年間排出量	17,788t	16,900t	16,600t
グリーンアップ事業年間参加者数	43,888 人	55,000 人	65,000 人
ポイ捨てがないきれいなまちだと思っ子ども割合	32.4%	45%	50%

◆計画の体系

基本施策	施策の展開方向	戦略計画
6 ごみ対策	1 3Rを推進する	2-1 5-1
	2 教育・啓発活動の充実を図る	2-3 4-3 5-1
	3 地域の環境美化を推進する	2-2 3-3
	4 処理施設を整備する	5-1

◆主な計画事業

事業名	事業概要	事業費(千円) H21～H23
ごみ処理基本計画策定事業 【廃棄物対策課】	ごみ処理基本計画の見直しを行う。	3,000
小牧岩倉衛生組合負担金 【廃棄物対策課】	小牧岩倉衛生組合の管理運営、建設費に対する負担	基本施策33参照

基本施策7 環境対策

◆目指す姿

市民一人ひとりが環境を地球規模で考え、身近なところから自主的に環境保全活動を実施することにより、自然の恵みに満ちた、快適で住みよい生活環境が創造されています。

◆目標値

指 標		現 状 値	目 標 値	
			平成 25 年	平成 30 年
住宅用太陽光発電システム設置補助事業における年間総出力		1,287.9 Kw	2,750 Kw	4,000 Kw
公共施設における温室効果ガス年間排出量		22,727.7t	20,564t	20,000t
エコライフチェックシートの実践によるCO2削減量		0.87kg	0.93kg	1.0kg
日頃から環境にやさしい取組みを心がけている市民・子どもの割合	市 民	80.4%	82%	85%
	子 ども	84.5%	85%	85%

◆計画の体系

基 本 施 策	施 策 の 展 開 方 向	戦 略 計 画
7 環境対策	1 地球温暖化対策を推進する	5-1
	2 市民の環境意識の高揚を図る	5-1
	3 新エネルギーの利活用を進める	5-1
	4 環境保全活動を進める	1-3 3-3

◆主な計画事業

事 業 名	事 業 概 要	事業費(千円) H21～H23
民間建築物吹付けアスベスト対策事業 【建築課】	多数の人が利用する建築物に対し、吹付けアスベストの分析調査、除去等に要する費用の一部を補助する。	6,000

基本施策8 公共交通

◆目指す姿

公共交通機関が充実して利用しやすくなり、自家用車に依存しなくても生活できる環境が整備され、バス・鉄道の利用者が増加しています。自家用車の利用を控える市民が増えて環境にやさしい社会となっています。

◆目標値

指 標	現 状 値	目 標 値	
		平成 25 年	平成 30 年
名鉄小牧線市内各駅の年間乗降客数	9,260,554 人	9,500,000 人	10,000,000 人
こまき巡回バスの年間利用者数	202,270 人	330,000 人	360,000 人
日頃から公共交通を利用するよう心がけている市民の割合	28.3%	34%	40%

◆計画の体系

基 本 施 策	施 策 の 展 開 方 向	戦 略 計 画
8 公共交通	1 総合交通計画を策定する	5-2
	2 公共交通機関を充実させる	5-2
	3 公共交通を利用しやすい環境を整える	1-2 3-3
		5-2
	4 公共交通の利用を啓発する	5-2

◆主な計画事業

事 業 名	事 業 概 要	事業費(千円) H21～H23
総合交通計画策定事業 【交通防犯課】	だれもが安心して円滑に移動できる交通体系を確立するため、交通全般に関わる総合的な計画を策定する。	37,000

基本施策9 防犯・交通安全

◆目指す姿

市民の防犯意識が高まり、自主的な防犯活動が行われています。地域住民と警察、行政が連携した防犯対策も充実し、犯罪は減少しています。また、市民の交通安全意識が高まり、交通マナーも向上し、交通事故は減少しています。

◆目標値

指 標	現 状 値	目 標 値	
		平成 25 年	平成 30 年
年間犯罪発生件数	3,311 件	3,150 件	3,000 件
年間交通事故発生件数(人身事故)	1,429 件	1,200 件	1,000 件
隣近所への声かけをしている市民の割合	26.9%	28%	30%
この1年で通学時に危ないと思ったことがある子ども の割合(交通事故や不審者など)	15.1%	14%	12%

◆計画の体系

基 本 施 策	施 策 の 展 開 方 向	戦 略 計 画	
9 防犯・交通安全	1 防犯活動の充実を図る	1-1	2-1
	2 犯罪を減少させる	1-1	
	3 交通安全意識を高める	1-1	4-3